



シリーズ
探訪・探求
第三十二回
訪れたいまち
和歌山県和歌山市



ニタマ駅長

公共交通と 地域を支える 人々の熱い想い

行政や鉄道会社を動かした
住民の本気の熱意

JR和歌山駅の9番ホームに「いちご」や「猫」がびっしり描かれた、ひときわ目を引く車両が止まっている。思わず足を止めたくなるユニークな車両を運行しているのが、和歌山電鐵貴志川線だ。

貴志川線は元々別の事業者が運営していたが、平成15年経営難を理由に廃線検討が発表された。沿線住民にとっては唯一の公共交通機関であったため、突然の発表に「通勤や通学の手段がなくなってしまう」と大変な危機感に襲われたという。そんな絶望的な状況の中「住民の声を届けたい」と立ち上がったのが、当時団地の区長（自治会長）で現在「貴志川線の未来をつくる」会代表の濱口さんである。当初数名でスタートした有志の会も、鉄道存続に向けた濱口さんらの熱心な活動により、会員数も6400名を突破、宣伝・啓蒙活動の広がりなど、目



▶貴志川線を支える皆さん。
（左から）和歌山電鐵 竹添さん、貴志川線の未来を「つくる」会 濱口さん、和歌山電鐵 山木さん、麻生さん、和歌山市 上江さん。「公共交通の重要性を共感してもらうためには、一生懸命働く姿を見せようがありません。これからも皆さんに喜んでもらえる路線を目指したいです」（麻生さん）



に見える住民の本気の熱意に押され、厳しい財政事情を理由に難色を示していた行政も財政支援を決定した。そして同じく熱意に動かされ運営事業者の公募に応募した岡山電気軌道が、平成17年、後継事業者に決定し、和歌山電鐵株式会社が設立されたのだ。

日本一心ゆたかな ローカル線を目指して

「実際に利用している方の意見を聞かないと何が必要とされているか分からないので、利用者の方と一緒に話し合える場を作りました」と語るのは和歌山電鐵取締役の山木さん。沿線の住民団

和歌山市

かた
加太

ご当地グルメ

梅干し・グリーンソフト・和歌山ラーメン（「早寿司（はやずし）」と一緒に食べるのが地元流）・和歌山ジンジャーエール



ともがしま
友ヶ島

加太港から定期船で約20分で行ける自然の宝庫。砲台跡を巡るハイキングコースが人気。



森林公園

圧倒されるほどの恐竜オブジェはまさに実物大！別名「恐竜公園」。公園の頂上からは、美しい加太の海景色を見渡すことができる。



あわしま
淡嶋神社

「女性のための神様」として広く信仰されている。境内には全国から奉納された人形がぎっしり。毎年3月3日の雛祭りに開催される雛流しは全国的にも有名。



和歌山城

市の中心部にある虎伏山（とらふすやま）にそびえる白亜の天守閣が印象的な紀州藩徳川家の居城。西の丸広場と二の丸庭園を結ぶ「御橋廊下（おはしろうか）」は全国的にも珍しい斜めに架かる廊下橋。

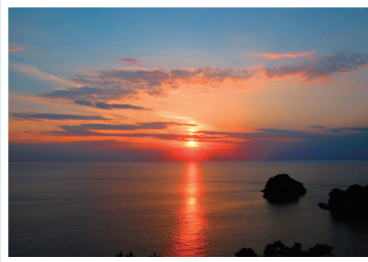
和歌山駅

貴志川線



伊太祈曽駅

わかうら さいかざき 和歌浦・雑賀崎



夕日スポット

雑賀崎展望台からの美しい眺め！



ばんどこていえん
番所庭園

「番所ノ鼻」と呼ばれた見張り番所跡。万葉ゆかりの地。

ふるうぼし 不老橋

10代藩主・徳川治宝（はるとみ）の命により作られたアーチ型の石橋。市の指定文化財となっている。



和歌山駅

貴志川線のりばがある9番ホームへ続く階段には、たま駅長のイラストや沿線の紹介がいっぱい。



「景色の美しさや食事の美味しさだけではなく『コレってオモロイね!』って思ってもらえるものを+αで提供したいんです。訪れる人にワクワクしてもらいたい!!」と休暇村紀州加太 義本さん。

『2012和歌山の味匠（たくみ）』に選ばれました



よもぎ餅

食べると口の中いっぱいに加太の天然よもぎの香りが広がり、甘さ控えめな餡と柔らかなお餅が相まって何個でも食べられる美味しさ。



鯛ラーメン

鯛の骨から取ったスープは、あっさりしつつも深い旨みを堪能できる逸品。

ちょっと日常を離れたい。

そんな時は加太の海と美味しい食事のパワーチャージ!

和歌山市郊外にある加太は、万葉の時代から瀧見の浦と詠まれた景勝地で、鯛の一本釣りや夕日の美しさが有名な土地です。

友ヶ島同様に砲台跡を巡るハイキングコースとして、深山砲台跡もおすすめ！緑の中にある古いれんが造りの遺跡は、どこか神秘的かつ重厚な雰囲気にも包まれています。緑を抜け展望台へ行くと、今度は淡路島を含む紀淡海峡の絶景を眺める事ができ、眼下に広がる穏やかで雄大な風景は、思わず息をのむほど美しい。

また加太には美味しい食べ物もいっぱい。地元で捕れる鯛をはじめとする新鮮な海の幸を堪能できます。休暇村では美味しいだけではなくユニークな名前の食事も用意され、訪れる人を楽しませてくれます。「加太は元気のある若手により勢いのあるまちです。でも加太だけではなく市全体が元気になれば意味があります。市が一丸となり全体が盛り上がり上げていければいいと思います」（義本さん）



◀和歌山市観光特別大使「アゼリニヤ」のニタマ駅長
和歌山市の観光キャンペーンスタッフ「アゼリア」（市花「つつじ」の英語名）にちなみ、猫のニタマ駅長は「アゼリニヤ」！

体や学校の校長や生徒会長、商工会等と、自治体、事業者からなる「運営委員会」を設置し、利用者の増加や利便性、満足度アップのためのアイデアを出し合った。そして日本一心ゆたかなローカル線を目指して、住民は駅美化や集客のためのイベント開催などを行い、行政は地域づくりとしての支援、そして事業者においては社長自らが沿線の実情を把握するために各駅を歩いて視察したと言う。廃線も検討された貴志川線が奇跡ともいえる存続を果たした背景には、こうした住民・行政・事業者の三位一体での取り組みがあったのだ。

そこへ日本の民営鉄道では初となる猫の駅長、三毛猫の「たま駅長」が誕生。国内にとどまらず、海外からも旅行者が押し寄せるほどの人気者となった「たま駅長」の客引き効果も加わり、年間200万人を切っていた乗客数は220万人以上に増加。和歌山電鐵は地方鉄道の再生モデルといわれるようになった。平成21年には地域公共交通優良団体国土交通大臣表彰も受賞した。



チャレンジ	250万人
あと4回多く乗って永遠させよう	21.2万人
対前年度	対目標
20.0万人	0.4万人
106.4%	101.9%



▲貴志川線の未来を“つくる”会の取り組み。つくる会の方はいつも黄色のジャンパーを着て貴志川線を支えている。



▼DESIGNED BY EIJI MITOOKA+DON DESIGN ASSOCIATES (左から) いちご電車、おもちゃ電車、たま電車。ユニークなのは外装だけではない。それぞれのモチーフが所狭しと散りばめられた車内は、思わず心がほっこりし、幼少の頃に引き戻してくれるような気分に。



たま駅長は取材後の平成27年6月22日ご逝去され、同年6月28日、最後の辞令により名誉永久駅長になられました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

地域公共交通優良団体国土交通大臣表彰
地域公共交通に関する取り組みが他地域の模範となるような顕著な実績がある団体を表彰することで、優良事例の情報提供等を図ることを目的としたもの。

住民の交通手段と元氣なまちのために

地域公共交通は交通手段としてだけでなく、地域の活性化にも重要な役割を果たしている。濱口さんは「人の流れを作ることが、元氣なまちをつくることになるんです」と話す。実際に

さらには市のPRに貢献している「和歌山市観光特別大使「アゼリニヤ」に就任するなど、ニタマ駅長大活躍である。

「ネコの駅長！ネコの観光特別大使!!」
貴志川線には「たま駅長」の他に、もう一匹猫の駅長がいる。和歌山電鐵本社がある伊太祈曽駅の駅長「ニタマ」だ。当初たま駅長の部下として就任し、たま駅長の代行業務などで研修をしてきたが、後にニタマちゃんにも正式辞令が交付され、駅長となったのだ。明るく人なつこい性格のニタマ駅長は一躍人気者となり、乗客数等アップの立役者ともなった。

人々の想いが詰まった魅力溢れる貴志川線。かわいい駅長さんやユニークな電車、そして車窓からののどかな景色を訪ね、癒やされてみては。

貴志川線沿線ではイベントの開催はもちろんだが、お立ち寄りスポットやグルメをまとめたマップ、レンタサイクル「たま自転車」に乗って周辺のパワースポット等を探索するサイクリングマップを作成したりと、地域全体での取り組みが盛り上がりを見せている。しかし地方鉄道を取り巻く環境は極めて厳しいのが現状で、貴志川線を支える人々は今も変わらず精力的に存続運動を行っている。「素晴らしいのが9年経った今でも「つくる」会の熱心な取り組みが変わらないことです（山木さん）。市の職員上江さんも「住民も電鐵さんも本当に一生懸命取り組んでいます。行政としてもできるだけだけの支援をしていきたいと思っています」と語った。